

報告者：武田直隆（静岡市立高校）

■目的

- ・鹿児島国体の振り返りから、次世代の選手育成と指導者養成の発展へつなげる
- ・これからの国体チームのあり方を考察する

■報告対象者

- ・静岡県のサッカー指導者（４種・３種・２種）
- ・各種別の技術委員、トレセンスタッフ

■分析対象

- ・視察を行った５試合
- １回戦 東京 vs 鹿児島（１－１pk4-2）福岡 vs 新潟（２－１）愛知 vs 長野（３－０）
- ２回戦 佐賀 vs 福島（４－０） 大阪 vs 静岡（４－３）

■結果

優勝：茨城県 準優勝：大阪府 ３位：東京都 ４位：広島県

■参考文献

JFA 指導指針 2017（各年代世界大会 T S G 国内大会 T S Gからの共通した課題、ウィークポイント）
JFA 鹿児島国体 TSG（11/20 オンライン）

■静岡の試合展開

昨年度の栃木国体と同様の初戦敗退という結果となった。昨年度は新潟県、今年度は準優勝した大阪府に前半３分に先制するも３点奪われ１－３。３失点後のすぐに得点を挙げ２－３。前半のアディショナルタイムにPKを与え２－４で前半を折り返した。後半の立ち上がりには左サイドを崩し、クロスから１点を挙げ３－４まで追いついたが、そのまま試合終了となった。

■課題の発見と分析

□35分ハーフという普段より短い試合時間のなかでのゲーム運びと修正力の重要性

- ・相手の特徴はスカウティング通りで２トップ⑨⑩の縦関係であった。しかし、静岡県は落ちた選手のマークをルーズにしまい、間延びした中での守備となってしまった。前半の試合の中で修正したい点であった。
- ・先制点を奪った直後の失点や前半のアディショナルタイムでの失点があったこと。

□基準を示し課題に取り組んでいく必要性

- ・JFA 指導指針の中にも U16 年代での TSG から課題として「１対１の勝負にこだわる」、「コンタクトプレー」、「ゴールを奪う・守る強い守備意識」、「厳しいプレッシャーの中でのシュートテクニック」の記載がある。このどれをとっても対戦した大阪府の方に分があったように感じた。
- ・視察したゲームでは、１対１の対応力とコーチング等でチームを統率する CDF や早生まれの経験値のある選手が見られた。早生まれやゲームに出場し続けている選手の発掘が必要である。
- ・準決勝の２試合、３決、決勝の公式記録から、この４ゲームの総シュート数は 78 本、１ゲーム平均 19.5 本、１チーム平均 9.75 本となる。どの県も組織的な守備で臨んできているが、U18 年代と比較すると、背後の対応やスライド、チャレンジ&カバー、シュートブロックなどの対応の課題もあり、シュート本数の多いゲームが多数見られた。また、１回戦の 8 ゲームの総シュート数は 152 本、１ゲームの平均 19 本となる。非常にシュート数の多い大会であったように感じる。70 分、同点の場合は PK というトーナメント方式の U16 の大会だからなのか詳しい分析はできていないが、多くのチームがサッカーの目的、原理原則の理解と徹底の中でイメージを共有し、ハードワークするゲームが展開されていたように感じた。

□戦術的理解力の向上へ

- ・チーム戦術の理解、システムの特徴を理解、プレーエリアに応じたプレーに関しては、３種年代、そして２種の所属チームの中で、トレーニングとゲームを繰り返しながら高めていきたい。チームスタッフのベンチワークに加えて状況を認識し、奪いに行くのか遅らせるのか。チームにとって危険なスペースはどこか。危険な選手は誰なのか。相手の攻撃を予測しながらポジションを取り、自分勝手ではなく組織的にボールを奪える選手の育成は急務である。

■提言（今後の選手育成、指導者養成に向けて）

□3種、4種トレセン活動等を通じた中での課題の共有と選手発掘とベクトル合わせ

□GK/CDF/FWに特化した育成・強化策の構築

（過去の国体レポートは静岡県サッカー協会 HP（指導者）に掲載中

□トレセンスタッフやライセンス取得者（A級、B級）の指導者講習会の実施とベクトル合わせ

■データ

・総得点 73点 3.04/試合 クロスから 27点

クロスを上げた位置、ニアゾーン：8点、29.6% ワイドゾーン、13点、48.1% ディープゾーン、6点、22.2%

得点の位置：PA内 41点 75.9% PA外 14点 24.1%

得点のタッチ数：1タッチ 29点 52.7% 2タッチ 23.6% 3タッチ以上 23.6%

セットプレー 20点 27%（FK:3点、CK:13点、PK:3点、スローイン:1点）

・高2（早生まれ）16.7%、高1 82.0%、中3 5名 1.3%

・Jクラブ 47.7% 高体連 193名 50.3% タウンクラブ 8名 2.1%

（静岡県は、浜松開誠館 4名、藤枝東 2名、静岡学園 1名、磐田東 1名、清水エスパルス 3名、ジュビロ磐田 3名、アスルクラロ沼津 2名）計 16名中 6名が早生まれ。